



みのる法律事務所
弁護士 千田 實
〒021-0853
岩手県一関市字相去57番地5
TEL:0191-23-8960
FAX:0191-23-8950

みのる法律事務所便り

第377号

令和3年9月

い な べ ん だ べ ん く
田舎弁護士の駄弁句 (101)



こころえひろ
年寄の 心得拾い 気が付いた
進化なければ 楽しめない



令和3(2021)年9月1日
あおぞらうきよのすて
青空浮世乃捨

失敗した体験を思い出し、年寄となったら、こういうことに気を付けなければならぬという点を、暇潰しに拾い出して書いています。

もう30話を超えて拾い出しました。そうしているうちに、「年寄は進化しなければ人生を楽しめない」と言うことに気がきました。

ダーウィン(1809-82、イギリスの生物学者)は、「生き残れる者は、強い者でも賢い者でもない。変化に順応できる者だ」と言っているそうです。

年寄となっても、人生を楽しめる者は、強い者でも、金のある者でも、賢い者でも、ズルイ者でもないのです。年寄は、環境の変化や刺激に慣れ、それに合うようにならなければならないのです。

ですが、年寄となって変化するのは、環境などのまわりだけではないのです。まわりより、自分自身が一番大きく変化するのです。若い頃にできたことができなくなっているのです。

この自分自身の変化に気付き、その変化に順応できなければ、年寄は人生を楽しめないのです。「年寄は進化しなければ人生を楽しめない」という考え方を、『年寄の進化論』と呼ぶことにしました。

いなべん だべんく
田舎弁護士の駄弁句 (102)

弱くなり 鈍くなったら それなりに
それに合った 楽しみ探す



令和3(2021)年9月1日
青空浮世乃捨

この句は、前句に続く句です。連句の変形とでも言っているのでしょうか。ともかく、前句とつながっている内容となっています。

年寄となって、より人生を楽しめる者は、強い者でも、金のある者でも、賢い者でもありません。

弱くなったり、鈍くなったり、金がなくなったり、病気となったり、入院したりと、辛い目にあう度に、これを楽しんでやろうと、変化を楽しむことのできる者こそ、変化に順応し、人生を楽しむことのできる者なのです。

年寄は、体力が弱くなり、感性が鈍くなることは避けられません。この弱くなったこと、鈍くなったことを、楽しむ材料としなければならないのです。

年寄は、体力、感性は悪くなりますが、経験があります。知恵があります。知恵を使った楽しみ方ができます。年寄は、若い頃よりは金があります。金を使って楽しむことができます。年寄は、人脈があります。人脈を使って楽しむことができます。

知恵もなく、金もなく、人脈もない年寄でも、病気だけはあります。病気しか残っていない場合は、病気を楽しめばいいのです。

「浮世をば 楽しみ尽くせ 病まで」ということになるのです。年寄の進化論の最終到達点は、そこに行きつくのです。病気を楽しめるようになれば、何だって楽しめるようになります。

『年寄の心得集・年寄の進化論』



「冊子^{きっし}」とは、紙を重ねてとじた本です。ページ数の少ない、うすいものです。

年寄となり、暇潰し^{ひまつぶ}に駄弁本を発売しています。駄弁本の発売も多くなってきましたと、経済的負担も軽視できません。ページ数が厚くなりますと、読んでくれる人にも負担をお掛けします。

そこで、事務局と相談したところ、小さく分けて手製の冊子にして、売ることには考えないで、親しい方にだけ差し上げるのがよいのではないか、ということになりました。

冊子がある程度たまり、本にした方がよいという状況となったら、まとめて本にして出すという方法にしましょう、という結論となりました。

その手始めに『いなべんの短編集』第1話から第5話を出してみました。事務局もその経験から、やれそうだとのことです。お読み下さった方も、読み易くてよい、とのことでした。

手製の冊子を出すというやり方に自信が生まれました。今月号の事務所便りには、『年寄の心得集・年寄の進化論』という手製の冊子を同封します。

『年寄の心得集・年寄の進化論』は、タイトルは立派ですが、内容はどうしようもないほどつまらないものです。何の価値もない、取るに足りないものです。「こんなものを寄こすな」と叱られそうです。

自分の失敗談を紹介するだけのもので、皆様には関係のないような話を並べただけです。

ですが、自分の失敗談を拾^{ひろ}っているうちに、ダーウィンの進化論^{たど}に辿り着けたのです。それは、ダーウィンが「生き残れる者は、強い者でも賢い者でもない。環境の変化に応じて生き方を変えられる者だ」と語ったという考え方です。

年寄は、自分の変化に気付き、その変化に応じて生き方を考える、つま

り進化しなければならないのです。変化に順応^{じゅんのう}しなければならないのです。そのことを『年寄の進化論』などとオーバーに呼んでみました。

年寄は、まわりの変化に順応する前に、自分の変化に順応しなければならないのです。

まわりも変化しますが、年寄は、まわり以上に、自分の方が激しく変化します。この自分自身の変化に気が付き、自分自身の変化に合うようにならないといけないのです。やれた若い頃の自分をイメージしていても、生き残れません。やれなくなっている自分を認識し、それに合わせなければならないのです。

年寄は、体は弱くなり、力も無くなり、速く動くこともできなくなっています。感性も鈍くなり、反応も遅くなります。それは残念ではありますが、止むを得ません。赤ちゃんに戻っているのです。いつかは、他人の手を借りなければならないくなります。

ですが、赤ちゃんと違い、経験によって得た知恵があります。若い頃より利口^{りこう}になっています。これを活かして、楽しく生きる方法はあります。金も若い頃よりはあります。金を使って楽しむこともできます。

年寄は、体力がなくなったことを自覚し、体力で楽しむことは諦め、体力の衰え^{おとしろ}を少しでも遅らせるために、少しのチャンスでもあれば、こまめに身体を動かしながら、いくらかでも体が動くようにしておいて、知恵と金を使い、残された人生を楽しみ尽くしましょう。

いつものことですが、今回もまた、脱線^{だっせん}してしまいましたが、「年寄は変化に順応し、進化し、しぶとく人生を楽しみ尽くしたい」ということを申し上げたいのです。これも『いなべんの哲学』の実践なのです。

年寄は、残された人生を楽しみ尽くすためには、小さなことを丁寧^{ていねい}に、楽しみながらやるだけです。手指、足指をグーパー、グーパーと動かしてみよう。それを楽しむだけでいいのです。

それができれば、人生は楽しめます。

